

# 「ごみ」の学習のあるべき姿は？

## 「ごみ」の効果的な教材化をめざして

### ■ 目指すべき社会像と「ごみ」教材化の意義

- 3 R (recycle/reuse/reduce) をもとに進めるごみの減量化と循環型社会の確立
  - ・ごみ処理費用の増大の問題
  - ・ごみ焼却による大気・土壌・水質汚染の深刻な問題
  - ・有限な資源の有効活用の問題【エネルギーと切り離しても】
- 市民や子どもの意識は高まっているのか
  - ・ごみ野焼きの問題
  - ・ごみ有料化の問題
  - ・「ごみ」生産者として意識の希薄さの問題
  - ・生活経験の不足からくる社会実態と子どもの意識の乖離
- 責任ある社会の構成者としての資質を培う教材化
  - ・「ごみのゆくえ」の先にあるものの重要性
  - ・4・5年の学習内容の整理

2002年の4年生に行った調査

#### 1 ごみ処分の現状

|          |     |       |     |
|----------|-----|-------|-----|
| 分別している   | 57% | 家で燃やす | 32% |
| 分別しないで出す | 4%  | 知らない  | 7%  |

#### 2 ごみ収集車の行き先

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 知っている | 7%(正回答1名) | 知らない | 93% |
|-------|-----------|------|-----|

#### 3 ごみ分別の理由

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 知っている | 18%(正回答0名) | 知らない | 82% |
|-------|------------|------|-----|

### ■ 「ごみ」教材化で欠かせない視点

- なぜごみを分別すべきなのかという視点
  - ・大気・土壌・水の汚染
  - ・「もったいない」意識
  - ・資源の有効活用
- ダイオキシンは欠かせない！
  - ・ダイオキシンの毒性・対人被害
  - ・ダイオキシン生成の仕組み【精査】
  - ・家庭用の小型焼却炉ではダイオキシンの生成は避けられない
  - ・生活経験の不足からくる社会実態と子どもの意識の乖離
- 生活者としての3 Rという視点
  - ・大量生産=大量消費社会から資源循環型社会への脱却が急務であること
  - ・消費者としても3 Rを念頭に置いた消費行動が求められること
  - ・自動車やPCの3 Rなどの具体を通じて
- 4年と5年の学習内容を確認しながら
  - ・4年は「廃棄物処理が地域の人々の健康な生活の維持向上に役立っていることを考えること」を中心に→ごみ処理の具体から見える環境問題
  - ・5年は「環境の保全の重要性について関心を深めること」を中心に→他の公害等と関連させながら

ごみ処理に携わる人々の  
願いや工夫を通じて共感  
的に理解することが大切

### ■ 「ごみ」への関心を促すHP

<http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-kkhzn/dxn/jisyusokutei14.htm> →全道ごみ焼却施設から出るダイオキシン濃度【15年度】

[http://homepage2.nifty.com/kike/gurahu/guraf\\_setumei.html](http://homepage2.nifty.com/kike/gurahu/guraf_setumei.html) →小学生向けダイオキシンコンテンツ・生活チェックグラフ作成ページ